

合併後韓半島統治ト帝國憲法トノ關係

秘

合併後韓半島ノ統治ト帝國憲法トノ關係

帝國ニ於テ韓國ヲ合併シテ帝國領土ノ一部トセラ
ルル場合ニ於テモ韓半島ノ事情ハ帝國內地ト固ヨ
リ同一ナラス其文化モ亦容易ニ內國人ト同一程度
ニ達セサルヘキカ故ニ帝國內地ニ於ケル一切ノ法律
規則ヲ合併ト同時ニ之ニ適用シ得ヘカラサルハ勿
論同半島ニ對シテハ其民情風俗及慣習等ニ鑑
ミ文化ノ程度ニ應シテ住民ノ幸福ヲ増進シ其
智識ヲ開發シ漸ヲ以テ内地人民ニ同化セシムル
ニ適切ナル法制ヲ之ニ布キ内地ト同化スルニ至ル
迄ハ帝國內地トハ特種ノ統治ヲ爲スノ必要アルコ
ト言フ俟タズ從來歐洲諸國カ其海外殖民地保

護地等ニ對スル統治ノ實例ニ徵スルモ佛國西班牙
及葡萄牙國ノ如キハ國法上其海外領土ヲ内地ト
同一視シ本國領土ト一體ヲ爲スモノト看做シ之ニ
反シテ英國、丁抹國及獨逸國等ハ其海外領土ヲ
國法上ノ意義ニ於ケル内地ト同一ニ看做ササルカ
如キ國ニ依リ國法上ノ見解ヲ異ニスト雖モ土人ノ
民情風俗慣習ハ本國人民ト同一ナラス其文化ノ
程度ハ本國ニ及ハサルコト遠クシテ之ニ本國ノ
法律規則ヲ悉ク適用スルコトハ不可能ナルカ
故ニ何レノ國ト雖モ其地方ノ特別ナル事情ニ鑑
ミ之カ改善ヲ圖リ其人民ノ幸福ヲ増進スルニ
適切ナル特別ノ立法及行政ヲ爲スノ制度ヲ執
ラサルモノナシ

海外ニ於ケル本國ノ殖民地保護地等ハ國際法ノ
見地ヨリモハ本國領土ノ一部ナルコト疑ナク全
然母國ノ主權ノ下ニ在ルカ故ニ母國ハ其地域
ニ對シテ如何ニ之ヲ統治スヘキヤハ全ク母國ノ
任意ニ屬ス隨テ其土地人民ニ對シテ内地ト同一
ノ統治ヲ爲スヘキヤ將タ内地ト異リタル特別ノ法
制ヲ以テ施行スヘキヤハ國際關係ニ於テハ固ヨ
リ各國ノ自由ナルカ故ニ前述ノ如ク諸國ハ其殖
民地保護地等ニ對シ内地トハ特別ナル法制ヲ
施行スルニ付テハ國家ノ如何ナル機關ニ於テ之
ヲ統治シ如何ナル形式ノ法令ヲ以テ其特別ナル
法制ヲ施行シ得ルヤハ各國ニ於ケル憲法上ノ問
題トス就中佛國ニ於ケル殖民地ノ立法ハ第十

七八世紀以來幾多ノ變遷ヲ經テ千八百五十四年
第二帝國時代ニ殖民地ノ立法權ハ上院立法機
關及皇帝ノ手ニ分掌セラレ千八百七十年以後
ニ於テハ兩議院カ殖民地ニ對シテモ立法ヲ爲シ
得ヘキ佛國ノ主權ヲ掌握スルニ至リタレトモ殖
民地ニ關スル從來ノ制度ニ於テ勅令ヲ以テ制定
シタル事項ハ特ニ法律ヲ以テ廢止セサル限りハ
依然勅令ヲ以テ規定シ得ルコトトシ殊ニ新ナル
國ヲ殖民地ト爲シタル場合ニハ軍人ノ總督ニ於
テ其地ノ行政權及立法權ヲ行使スルコトヲ認
メ更ニ又内國ノ法律規則ヲ殖民地ニ及ホスヘキヤ
否ニ付テハ千七百八十九年三月八日ノ勅令以來内
地ノ法律勅令其他ノ規則ハ特ニ其權限ヲ與

ヘラレサル限り爲政者ノ命令ヲ以テ直ニ之ヲ殖民
地ニ適用スヘカラサルコトトシ此主義ハ千八百七十五
年ノ憲法ニ於テモ默認セラレ内地ノ法律ヲ殖民
地ニ適用スル場合ニハ政府ハ勅令ヲ以テ特ニ之ヲ
規定スルコトト爲シ議會カ一定ノ法律ヲ殖民地ニ適
用セムトスル場合ニハ法律中ニ其規定ヲ殖民地ニ
適用スルコトヲ明記スルコトトセリ

英國カ其殖民地ヲ統治スルノ方法ハ之ヲ四種ニ分
類シ得ヘシ第一種ハ皇帝ハ樞密院令ヲ以テ其殖
民地ニ於ケル立法ノ權ヲ有スレトモ事實上ハ大守
ニ立法及行政ノ實權ヲ與ヘ居リ、第二種ハ大守ヲ
シテ行政委員ノ補助ヲ以テ其地ノ行政ヲ爲スト
共ニ立法委員ノ補助ヲ以テ之カ立法ヲ爲サシム

ルモノニシテ其行政委員及立法委員ハ共ニ皇帝又ハ其代表者タル大守ニ於テ任命ス、第三種ハ殖民地ニ全部又ハ一部選舉ニ依ル立法議會ヲ有シ行政委員ハ皇帝又ハ其代表者タル大守ニ於テ之ヲ命シ大守ハ立法議會ト共ニ其地ノ立法ヲ爲シ行政委員ト共ニ之ヲ行政ヲ爲ス、第四種ハ行政機關ノ長官ハ大守ニシテ其部下ニ帝國政府ノ官吏ヲ有シ立法機關トシテハ上下兩院ヲ有ス、然レトモ此四種ノ殖民地ヲ通シ立法ノ最高權ハ英國皇帝及英國國會ニ於テ掌握スルカ故ニ殖民地ノ立法機關ハ定シタル法律ニ抵觸スル法令ヲ發スルコト能ハス之ヲ要スルニ英國殖民地ノ立法ニ關スル最高權

ハ英國皇帝及國會ニ於テ之ヲ掌握スルカ故ニ國會ハ場合ニ依リ殖民地ニ對スル法律ヲ制定シ得ヘシト雖モ法律ヲ以テ其殖民地ノ立法行政ニ關スルコトヲ皇帝及樞密院ニ委任シ居ルカ故ニ皇帝ハ樞密院令ヲ以テ其立法行政ヲ爲シ國會ハ稀ニ其立法權ヲ直接ニ行使スルニ過キス

又獨逸國ハ帝國憲法第一條ニ憲法ノ施行セラルヘキ聯合國ノ領土トシテ普國ヲ始メ二十五箇國ヲ列記シ、一八七三年六月二十五日ノ法律ヲ以テアルサス、ローレンツ加ハタルカ故ニ帝國ノ法律勅令等ハ憲法ノ解釋上自ラ殖民地ニ及ハサルコト疑ナシト雖モ第四條ニ殖民及移民ニ關スル事項ハ帝國ニ於テ之ヲ監視シ其立法ヲ爲ス、明文ヲリテ帝國ノ立法ハ上院及下院ニ依リ之ヲ

行ノ力故ニ獨逸國殖民地保護地ノ立法ハ千八百八十八年
五月十九日ノ法律ヲ以テ其立法行政ヲ皇帝ニ於テ
監督スルコトヲ規定スルト同時ニ帝國議會ニ於
テ其皇帝ノ権限ヲ制限シ得ルコトヲ爲セリ
之ヲ要スルニ佛國英國及獨逸國ニ於テハ其憲法ノ解
釋上國會ニ於テ殖民地ノ立法權ヲ掌握スルニ拘ラ
ス其地方特別ナル事情ヲ顧慮シ内國ノ法律規則ヲ
直ニ之ニ施行シ得ヘカラサルカ故ニ法律ヲ以テ皇帝又
ハ政府ニ其立法權ヲ委任スルト共ニ國會ニ於テモ直
接ニ殖民地ニ適用スヘキ一定ノ法律ヲ制定シ得ヘキコ
トト爲シタルモノニレテ恰モ我帝國カ今日臺灣
管轄ニ關シ法律事項ヲ勅令及律令ヲ以テ規定スルト
トシタル制度ト異ナルコトヲ示帝國カ臺灣合併ノ當初ニ

於テハ閣議決定ヲ以テ同島ヲ帝國憲法施行ノ範圍
外トセラルタルモノ爾後其決定ヲ變更セラレ明治二十
九年三月法律第六十三號ヲ以テ臺灣總督ハ其
管轄區域ニ法律ノ效力ヲ有スル命令ヲ發シ得ル
コトトシ又現行ノ法律又ハ將來發布スル法律ニシテ
其全部又ハ一部ヲ臺灣ニ施行スルヲ要スルモノハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ムト規定セラレタルカ故ニ臺灣ノ統
治ハ此法律發布以來内地ノ如ク帝國議會ニ於テ
其立法ヲ爲スノ主義ト爲リ右法律ニ依リ其立法
事項ヲ臺灣總督ニ委任シタルト同時ニ内國ノ法
律ヲ臺灣ニ施行スルト否トヲ政府ニ委任シ之ヲ施
行ハ勅令ヲ以テ定ムルトトシ更ニ明治三十九年四月十
一日法律第三十一號ヲ以テ前記法律ヲ改正シ其總

定ニ一歩ヲ進メ特ニ臺灣ニ施行スル目的ヲ以テ法律ヲ
制定スルコトアル旨ヲ規定シテ律令ノ範圍ヲ減縮シ
第五條ニ第一條ノ命令(律令)ハ第四條ニ依リ臺灣
ニ施行シタル法律及特ニ臺灣ニ施行スル目的ヲ以
テ制定シタル法律及勅令ニ違背スルコトヲ得スト規
定シ更ニ又樺太ニ付テモ明治四十年三月二十九日法律
第二十五號ヲ以テ法律ノ全部又ハ一部ヲ樺太ニ施行
スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムトシ一定ノ事項
ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得
ルコトト爲シ法律ノ委任ニ依リ政府ハ臺灣及樺太ニ
於ケル法律事項ヲ勅令ヲ以テ規定スルコトト爲シタルト
同時ニ臺灣ニ付テハ帝國議會ノ協賛アリタル法
律ヲ以テ直接ニ其立法ヲ爲シ得ルコトトナレリ

然レトモ韓國ヲ合併シテ帝國ノ領土ノ一部トセラレ
タル場合ニ帝國憲法ノ解釋上韓半島ニ對シテ
モ當然其適用アリトシ其地ノ法律事項ニ付テ帝
國議會ニ於テ之カ協賛權ヲ有スルコト恰モ今日臺
灣及樺太島ニ於ケルト同一ト爲スノ必要アリヤ
英佛獨諸國ノ如ク殖民地ノ立法權ハ帝國議
會ニ於テ其最高權ヲ有スルモノナリヤト云ハハ必
スシモ然ラスト断定セサルヲ得ス何トナレハ此等諸國ノ
憲法ハ帝國憲法トハ全ク其性質ヲ異ニシ英國ニ在
リテハ其憲法上同國ノ主權ハ皇帝及國會
(King in Parliament)ニ於テ掌握スル所ナルカ故ニ殖
民地保護地等海外領土モ英國領土ノ一部ト
ル以上ハ其統治權ハ皇帝ノ手ニ存ニ在セズ英

國國會ハ皇帝ト共同シテ其主權ヲ有スルヲ以テ其
統治ニ付テハ皇帝及國會ニ於テ制定シタル法律
ヲ以テ之ヲ皇帝及樞密院 (King in Council) ニ
委任シタルト共ニ國會ニ於テモ特ニ海外領土ニ適
用アルヘキ法律ヲ制定シ得ヘク獨逸國ニ於テハ
皇帝ハ純然タル主權者ニ非ス同國現行憲法ノ
明文ニ徴スルモ立法權ハ同帝國ヲ組成スル聯合
諸國ノ代表者ヲ以テ組織スル帝國議會ニ於テ
掌握スルカ故ニ是亦議會ノ法律ヲ以テスル委任
ニ非サレハ同國殖民地保護地ノ立法ヲ皇帝ニ
於テ爲シ能ハスルヲ議會ハ法律ヲ以テ其委任
ノ權限ヲ制限シ得ルヲ明白ナルト同時ニ佛
國ノ如キハ共和政體ニシテ同國ノ主權ハ全然議

會ニ於テ掌握シ大統領ハ佛國ノ主權代表者ニ
テ行政長官タルノ資格ニ過キサルカ故ニ同國海
外領土ノ立法ハ固ヨリ議會ノ法律ニ以テ政府
ニ委任セサル限リハ政府ニ於テ命令ヲ以テ其
立法ヲ爲ス能ハサルト共ニ議會モ亦自ラ殖民
地ニ適用スル法律ヲ制定シ得ヘキニ及ニ我帝國
ハ憲法上是等諸國ト全然其政體及國體ヲ
異ニシ帝國ノ主權ハ全然天皇ノ一身ニ收攬セ
ラレ爾ニ帝國主權ヲ代表セラルルニ非ス却テ帝
國ノ主權ハ天皇ト一體ヲ爲シ天皇ハ主權ヲ親
ク掌握セラレ居リテ帝國議會ハ單ニ憲法ニ規
定シタル權限内ニ於テ帝國立法上ノ協賛機關
ニ過キサルヲ以テナリ

帝國憲法ノ規定ニ依リ帝國議會ハ朝鮮ニ於ケル
統治ニ関シ其立法事項ニ協賛權ヲ當然有ス
ヘキモノナリヤ否ニ付テハ議論アルヘシト雖モ帝國
憲法制定ノ當時ニ於テハ同憲法ノ條章ニ循ヒ統
治セラルヘキ地域ハ臺灣樺太關東州及韓國ヲ
包含セサルコト疑ナキ力故ニ之ヲ適用ヲ臺灣樺
太關東州及韓半島ニ擴張セラレントスルニ付テ
ハ帝國主權者ニ於テ其意思ヲ表明セラレテ南
テ内地以外ナル帝國領土ニ其適用アルヲ當然
ト謂ハサルヲ得ス從來臺灣樺太又ハ韓國ノ
如キ帝國ニ隣接シ且其民情風俗等モ稍々
帝國内地ニ類似シタル土地ヲ帝國ニ割讓シ又
ハ合併セントスルコトナル力故ニ此見解ノ當否ニ

関シテ疑ナク抱ケ者ナキヲ保セスト雖モ若シ歐洲諸
國カ本國ヨリ遙隔シ其土人ノ蒙昧ナル土地ヲ
殖民地ト為ス力如ク帝國カ亞弗利加洲ノ一部
又ハ菲律賓島ヲ我殖民地ト為スコトアリトモ
何人ト雖モ其殖民地ノ統治ニ関シテ帝國憲
法ノ規定ニ悉ク之ニ適用スルハ其主張人モ
ノチカレハク必スヤ英國獨逸國等ニ於ケル見解ノ
如ク斯ル殖民地ハ國法上帝國内地ト看做サスト
ノ見解ニ異議ナカルハシ果シテ然リトモハ韓國
合併ノ場合ニ朝鮮半島ハ帝國ノ領土ト為
リ帝國ノ一部ト為ル力故ニ帝國憲法第一條ニ
於テ大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統
治ストナル力如ク假令此憲法ノ規定ヲ俟タス

トスルモ當然天皇ノ大權ニ依リ之ニ統治セシメ命
令ヲ以テ朝鮮總督府官制ヲ發布シ朝鮮半
島ニ於ケル法律事項及會計事項ハ悉ク命令ヲ以
テ規定セラルモ我帝國憲法上敢テ不可ナカルハシ
又既ニ朝鮮半島ノ統治ハ大權ニ依リ勅令ヲ以テ
規定セラレ差支ナキ以上ハ臺灣ニ於ケル如ク朝
鮮總督ニハ内地ニ在リテハ法律ヲ要スヘキ事
項ヲ命令ヲ以テ規定スルノ權限ヲ有セシメラル
ル必要アルカ故ニ臺灣ノ律令ニ關スル前記法
律ト同一趣旨ノ條項ヲ命令ヲ以テ規定セラル
得ヘシ

右見解ノ如クスルニ於テハ既ニ臺灣及樺太ニ對
シテハ其統治ヲ憲法規定ノ範圍内トシ法律ヲ

以テ其地域ニ於ケル法律事項ニ關スル規定アルニ
拘ラズ獨リ朝鮮ニ對シテノミ從來政府ノ方針
ト全然反對ノ見解ヲ採リ同半島ニ限リテハ大
權直接ノ統治ト為スト憲法ノ解釋ヲ二三ニ
論理一貫セストノ批難ナキヲ保セスト雖モ此
批難タル有力ト為ス能ハス何トナレハ前述ノ
如ク帝國ノ國體及政體ハ英佛獨諸國ト
同一ナリ又シテ帝國憲法中一切ノ條項ヲ海
外帝國ノ領土ニ適用セラルト否トハ我主權
者タル天皇ノ大權ニ屬スルカ故ニ臺灣ニ付テ
ハ當初閣議決定ヲ以テ勅裁ヲ經テ天皇ノ
意思ヲ以テ之ヲ憲法ニ適用シ範圍外トシ大
權ヲ以テ統治スルトナレタルモ明治二十九

年律令ニ関スル法律ノ制定ト同時ニ臺灣ノ
統治チ内地ト同シク帝國議會ノ協賛ヲ以
テ法律事項ニ關スルコトヲ規定セラレタルニ止マ
リ二十八年同島ノ割讓以來翌二十九年三月至
ル迄ノ期間同島ヲ大權直接ノ統治トセラレ
タルハ決シテ不法ニ非サルト同時ニ政府ニ於テ
之ヲ不法ト爲シタルニ非ス樺太島ニ付テモ明治
三十九年四月法律第三十一號ノ制定ト同時ニ
同島ニ於ケル法律事項ハ帝國議會ノ協賛ヲ
以テ統治權ヲ施行スルコトトセラレタルニ過キスレテ
前記見解ヨリセハ臺灣及樺太ハ元來憲法ニ規
定スル一切ノ條項ニ依リ統治セラレルノ必要ナ
キト同時ニ天皇ノ意思ヲ以テ同條項ニ依リ統

治セララルモ全ク其自由ナルカ故ニ朝鮮ノ統治
ニ付テハ之ヲ大權直接ノ統治トセララルモ理論
上臺灣及樺太ニ關スル實例ト毫モ抵觸ア
ルコトナシ然レトモ從來臺灣ニ付テハ偶ニ閣議
決定アリタルニ拘ラス遂ニ其決定ノ自然消
滅ト爲リタル先例モアルカ故ニ若シ本見解ノ
如ク朝鮮ニ對シテ大權直接ノ統治主義ヲ
採ラルルニ於テハ閣議決定ノ形式ニテハ不可
ナルヘク必スヤ詔書ヲ以テ之ヲ言明セラレ韓
國合併ノ際帝國力韓國ニ對スル指導監理
及保護ニ關シテハ同國歲入ヲ以テ經費ヲ支
辨スルコトヲ原則トスルニ拘ラス帝國政府
其保護ニ關シテ年々多大ノ費用ヲ要スル

ノミナテス現下ノ状態ニ於テハ同國施政ノ實績
ヲ擧グルコト殆ント不可能ナルカ故ニ帝國
政府ハ韓國人民及同半島ニ於ケル帝國臣
民及諸外國人民ノ生活ヲ安固ニシ其福利
ヲ増進シ東洋ノ平和ヲ永遠ニ保持スルコト
ヲ期セムカ爲メ韓國皇帝ノ懇請ヲ容レ同國
ヲ帝國ニ合併スルコトヲ宜言セラルト同時ニ
同半島ノ民情風俗及慣習等ハ帝國內地ト趣
チ異ニシ其文化ノ程度ハ内地ト同一ナラカ
ルカ故ニ暫ク同半島ノ統轄ニ付テハ帝國憲法ノ
條ニ準テ之ニ適用セズ半島民人ノ生活ヲ安
固ニシ其幸福ヲ増進スルニ適切ナル施政ヲ
爲スルニ要ス其要ニ基テ大權ヲ以テ直接ニ之ヲ統治

スルノ趣旨ヲ詔書中ニ言明セラルルニ必要アリ
ト認ム

韓國ノ施政ニ關スル件
韓國合併ニ關スル件